

## 文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

文教厚生常任委員会は、令和6年5月7日（火）～9日（木）の日程で（大阪府豊中市）・（兵庫県伊丹市）・（大阪府八尾市）を視察して参りました。参加者は鈴木恒充委員長・加藤誠一副委員長・笹沼昭司委員・矢澤功委員・石岡祐二委員・福田克之委員と執行部職員2名及び、議会事務局職員1名であります。

最初の視察先は豊中市の「こども誰でも通園制度の事業」と、「子育てしやすさNo.1への各取り組み」について、2日目は伊丹市の「文化芸術と人とのまちづくり」についてと、八尾市の「長期欠席（不登校）の小中学生を支援する オンライン de 居場所」について、それぞれ研修してきました。

### 大阪府豊中市

#### ○「こども誰でも通園制度の事業・子育てしやすさNo.1への各取り組み」について

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、人口398,428人、面積36.60k㎡、平成24年4月に中核市に移行した市で、高校スポーツ（野球・サッカー・ラグビー）発祥の地です。

こども誰でも通園制度（以下「制度」）は、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる新たな通園制度で、令和8年度の全自治体実施に向け、豊中市では令和5年度より試行的事業を実施しています。

豊中市では、民間就労前事業者への委託形式が実施され、今年度は事業者公募により5園での実施を予定しており、7月から試行事業の実施を予定しています。

令和8年度からの本格実施に向け、庁内関係課とは対象児の認定部分や施設の認可部分や施設の認可部分での制度化を進めているところであり、事業者との調整において苦労している点として、令和5年度と令和6年度において実施内容に差がありその調整が必要であったこと、実施事業者との実情を踏まえた上で精度説明やアドバイスを行う必要があったとのことです。

特に、新に試行的事業を実施する際は、①利用者の申込が想定される枠数（ニーズ）と、公民で供給可能な枠数について、バランスを執っていく必要があること。②これから国の制度が決定していく段階のため、その検討状況を注視していくことが必要であると助言されました。

また、「子育てしやすさNo.1」として、基本理念を「子育て社会化の推進」を掲げ、子育て世帯が「将来にわたって住み続けたい町」を実現すべく、①“小1の壁の解消”として、放課後こどもクラブ（学童）の預かり時間の延長や休日開設、放課後こどもクラブ（学童）で民間資源を活用した習い事機能の追加。②“1人ひとりに個別最適な教育を提供”として、修学旅行費やドリルなどの副教材費の無償化。不登校特例校の設置。③“こどもとその家庭を社会全体で守る”として、全ての小学校区に子ども食堂をつくる、家事・育児支援などの支援サービスの増、一時保育手続きのシステム化や20時までの延長保育など、子育ての社会化に向けた取り組みを実施しています。

なお、これら施策の実現に向けては、財源の確保が重要ですが、市町が唱える「ビルド&スクラップ」により、何が必要か必要ではないかを十分に検討し、結果的に財源（事業費）を生み出しているとのこと。

今回の視察を通じて、こども政策の充実・強化を目指し、ビルド&スクラップによる財源を生み出し、自分たち自治体ができる最大の取り組みに対する意識の高さを感じることが出来ました。



●研修風景



●研修風景



●研修風景



●豊中市議場

## 兵庫県伊丹市

### ○「文化芸術と人とのまちづくりについて」

伊丹市は、兵庫県南東部にある、人口 195,139 人、面積 25.00k m<sup>2</sup>、人口密度 7,813 人/k m<sup>2</sup>の市で、大阪国際空港（伊丹空港）があることで有名な市であります。

伊丹市では令和 4 年 4 月に柿衛文庫、伊丹市立美術館、伊丹市立工芸センター、伊丹市立伊丹郷町館、伊丹市立博物館、を統合し芸術文化歴史の総合的な発信拠点、市立伊丹ミュージアムを開館しました。

この施設は、美術、工芸、俳諧俳句、歴史の各分野に及ぶ資料の収集保存と活用、また、幅広い世代が楽しめる、様々な展覧会をはじめ、講座やワークショップ、イベントなどの教育普及活動、デジタルミュージアムの整備、また、伊丹の酒造りを伝える、旧岡田家住宅（酒蔵、国指定重要文化財）と旧石橋家住宅を活用し、芸術文化を市内外に広く発信しています。また、伊丹の、私の、みんなの、ミュージアムとして親しまれることを目指してつけられた「アイム」という愛称のもと、文化、芸術を通して、人と町を繋げる活動に取り組んでいます。

今回の視察を通じて、伊丹市の人口は約 19 万人、土地面積は 25 k m<sup>2</sup>と人口密度が高く、複合施設の地理的条件などもありながらも、ミュージアムをきっかけに、ヒト、コト、モノがつながることで、市民を主体としながら、伊丹市への来訪者も対象とした多様な事

業運営を行う伊丹市の積極性を感じました。



●研修風景



●市立伊丹ミュージアム

## 大阪府八尾市

### ○「長期欠席（不登校）の小中学生を支援する オンライン de 居場所」について

八尾市は、人口 259,890 人、面積 41.72k m<sup>2</sup>、大阪府の内陸中央部にあり、大阪都心部から 20 km 圏で、大阪市の東南に隣接し、平成 30 年 4 月に中核市に移行した市です。

八尾市では、「1 人のこどもも取り残させない教育の実現」を目指し①“新たな不登校児童生徒を生み出さない”②“学校以外の居場所づくり”③“どこにもつながっていない児童生徒を減らす”の 3 つの目標を掲げ、支援の充実・ICT の活用を含めた多様な教育帰化や居場所の確保を図っています。

既存の教育支援を、さわやかルーム通室と名称から変更し、短時間の体験（通室）から入室につなげ、入室後も定期的に心理士によるカウンセリングを実施し校内における居場所を提供しているであります。

しかし、この枠に入りきれない児童生徒も多数いることから、既存の取り組みに新たな取り組みを加えた“ほっとはあとサポート事業”を展開し、学校外の居場所づくりに取り組んでいます。現在、八尾市内青少年会館 2 箇所にて午前中、不登校児童生徒の居場所づくりは学生サポーターを活用し、不登校児童に寄り添った対応を行っています。

また、対面での支援策だけではアプローチが困難な児童生徒に対し「オンライン学習支援」により、児童生徒用端末を活用した学習やコミュニケーション等の活動を行っています。これは、2次元バーチャル空間を活用し、クイズなどを通じたコミュニケーションにより人とのかかわりを学ぶことだけではなく、オンラインを活用した学習体験活動を通じて学ぶ喜びや人とのつながりを実感し社会的に自立していくことも目指しています。

令和4年度の開始から約2年を経過したところですが、不登校であった生徒が進学について考えるようになり、高校進学につながるなど少しずつではありますが、その効果が見えている様子が伺えました。

今回の視察を通じて、八尾市における「1人の子供も取り残さない教育の実現」との掛け声の元、こどもファーストを重視した学習支援の積極的な取り組みに対する意識の高さを感じる事が出来ました。



●研修風景



●オンライン de 居場所(画面)



●研修風景



●八尾市教育センター